

「先生、私は大丈夫です。合格します！」

～『チャンクで英単語』シリーズ実践報告～

北海道立千歳高等学校 小林 佳 先生

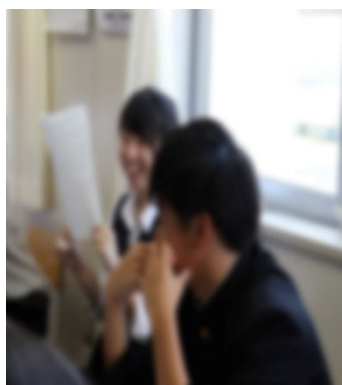
『チャンクで英単語』は 2015 年度から前任校の北海道室蘭清水丘高校1年生で採用し、継続的に各学年で採用していました。小林が担当した1年生の 2015 年は「Standard」、2016～2017 年では2年生、3 年生で「Advanced」を採用し、2018 年度、2022 年度入学生にも同様の指導を行いました。2017、2021 年度の3年生は、英語で苦勞することなく受験戦線で健闘しました。その指導内容と指導方針を紹介させていただきます。

2010 年前後の清水丘高生徒の全国模試における英語力は入学時から S.S45 付近で推移し、英語で勝負できる生徒はそう多くなく、進路結果も苦戦する生徒がいる状況でした。英語力が影響しているのは明らかだったので、指導法を変えなければいけないと感じ、出した答えが「自動化授業の構築、語彙指導、文法指導」の 3 本柱でした。英語の自動化と文法指導については札幌大学今井康人教授主催の「北の英語大学」や「英語教育今井塾セミナー」で研修を重ねながら授業構築に明け暮れました。語彙指導では『チャンクで英単語』著者の東京外国語大学大学院投野由紀夫教授の著書とセミナーで勉強させていただきました。

2015 年に『チャンクで英単語』を導入した当初は、「チャンク」という文字の固まりで語彙学習を意識する指導に特化しました。2017 年頃からは『チャンクで英単語』の例文を内在化することに重きを置き、2020 年頃からは英文を音読しながら例文を内在化することに力を入れ、この時は音声に特に注意しながら学習するよう指導しました。160 名の生徒がいるとどうしてもサボる生徒も出てくるので、そういった生徒は昼休みに 10 分～15 分程度の追加指導を行いました。2015～2022 年までの『チャンクで英単語』での語彙指導を時系列でまとめてみます。



千歳高校国際流通科英 C I の授業風景



室蘭清水丘高校の授業風景

1. 2015 年度入学生(2015 年4月～2018 年3月)

2015 年に1年生で初版「Basic」「Standard」を導入。「Standard」を1年で3周し、CEFR-J3000 レベルを固めました。テストは月曜と金曜の週2回で、チャンク番号35個を出題範囲としました。週2回のテストを設定することで、毎日単語帳と向き合う状況にできると考えました。また、出題範囲が広すぎるとやる気を削ぎ、狭すぎるといつまでたっても最後のチャンク番号1000番の指導が終わりません。

2016～2017 年には2年生、3年生で「Advanced」を指導。「Advanced」は1770 例文あるので、2年間をかけて反復指導。センター試験英語の学年平均は経年比較で10～20点程度アップし、進路結果も大きく向上しました。

2. 2019 年度入学生(2019 年4月～2021 年3月)

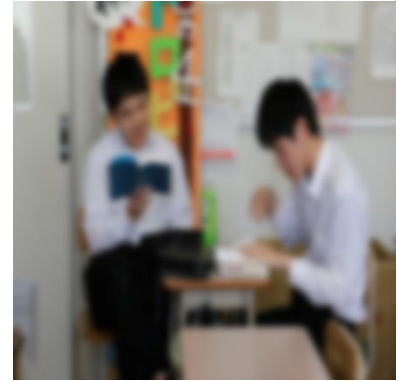
『チャンクで英単語』指導第二世代。入学生に2版「Standard」を指導。初版よりチャンク数が増えたためか、1年間で3周できませんでした。語彙は反復すればするほど定着度は増しますので、可能な限り周回数を増やしたほうがいいと考えます。ただ、やりすぎると生徒の負担になってやる気を削ぐので、生徒の能力と範囲と指導速度のバランスが一番大切です。

2020～2021 年、この頃から新たに導入される共通テスト対策を意識しながら指導を行いました。チャンク導入第一世代と同様に4500 レベルを2年間で3周し、かつこの世代には例文を書かせる指導を重視しました。授業においても「日本語を聞いてチャンクに直す」活動をしなが、音声・発音も大切にしよう意識させました。また生徒にはCEFR-Jを紹介しました。

共通テスト対策をする上で「Native が日常使用する順」を知ることは指導に説得力が増します。リスニングテストについてはまさに「Native が日常使用する順」にしたがって語彙・表現が出題されますので、CEFR-J 準拠の『チャンクで英単語』が共通テスト対策に適しているのは間違いありません。今もその考えは同じですし、共通テストはCEFR-J3000 レベルが最も問われるテストですので、「Standard」をいかに定着させるかが共通テスト対策の鍵と言えます。リスニング対策に問題集を年間で何冊も購入させて指導している学校もあるようですが、3000 レベルまでを徹底的に定着させることが一番の近道です。国公立大の二次試験英語対策に、試験直前まで「Advanced」の例文を音読している生徒もいました。その生徒はとても謙虚な生徒でしたが、受験移動日の前日に「先生、私、合格しますよ◎」と宣言し、見事合格しました。自分の英語力に自信があったのでしょう。他の生徒の進路結果も優秀でした。

3. 2022 年度入学生(2022 年4月～2023 年3月)

2022 年度1年生にも「Standard」を採用しました。この学年は入試において定員割れの状態で、学力上位層から下位層までいる「指導に難しい集団」でした。しかし入学時からの指導により、全国模試での学年偏差値が上がり、1年間下がることはありませんでした。



室蘭清水丘高校の授業風景

まとめ 語彙指導で大切なことは

- ① 「Standard」→「Advanced」というように、CEFR-J 準拠の単語帳を利用しながら、使用頻度の高い順番から習得させる。(3000レベル→4500レベル)
- ② 単語帳を1周で終わるのでなく、可能な限り周回を重ね、一定の間隔で反復させる。(分散効果)
- ③ 「発音と筆記」。チャンクと例文を組み合わせながら、発声と筆記を授業・家庭学習で自ら取り組む環境を設定する。(受信→発信)
- ④ 定着度が低い生徒は学校で一定の課題を課す。サボりを放置すると、全体に怠惰の雰囲気生まれて波及し、勉強しない集団になる。

時々耳にするのが「3000 レベルを指導せず、4500 レベル以上を授業で扱っている」というものです。語彙指導は「ビルを建てる」と同じで、いきなり中層階や屋上を作ろうとすると良いことは起こりにくいです。1階から順番に作り上げ、最後に屋上や屋根を作り上げます。語彙指導は低層階にあたる「1000～3000 レベル」までをいかに定着させるかが重要で、その後の英語力に大きく影響します。使用頻度の低いアカデミック語彙ばかりを指導してもまさに「重箱の隅」で、生徒の利益にはなりにくいと考えます。

2、3年生の授業でも、「共通テストでは『チャンクで英単語 Standard』が一番大切だ！」と何度も指導しました。高校生は当然ながら大学受験を経験するのは初めてですから、単純明快な言葉で「これをやれ！」が一番分かりやすく効果的です。荒れた海から母港に戻るように、困った時に頼れる存在を提示してやることも我々の役割です。小林の生徒には、「困ったらチャンク！」という意識は確実にあったと思います。

「先生、私は大丈夫です。合格します😊」と言える生徒を数多く世に送りだせるよう、さらなる実践に励みたいと考えています。

